

## 参加者のみなさんからの感想

市民検討会を振り返って、市民委員のみなさんから2年間を通して学んだことや感想を話していただきました。いただいたご意見の一部をご紹介します。

ただ地形や景観を見ているのと、歴史や背景を知って見るのでは、見方が違ってくる

深大寺ばかり見ると深大寺マニアになってしまうが、崖線の一部でもあることを改めて感じることができた

調布市の景観を考える良いきっかけになった

みなさんで同じものを見て意見交換することで、違う意見を知ることができて楽しかった

これまで漠然と見ていた景観を、テーマを設定することで集中して見ることができた

今までただ崖があるとしか感じていなかったが、成り立ちや歴史を知って、新たな目線で崖線を見るようになった

今ある景色は今だけのものが大切に手入れされているから保たれている

国分寺崖線の模型を作って、現地を見に行ったことで全体像を感じることができた

景観を立体的に考えてみる、五感を使って考えてみるのもよい

変わって良い景観と変わってはいけない景観を分けて、きちんと守っていかねばならないと感じた

## 市民検討会のとりまとめ冊子を作成しています

深大寺、国分寺崖線を景観の視点から調査、検討、意見交換などを行ってきた2年間の取り組み内容を冊子にとりまとめました。

調布市の景観において重要な役割をもつ国分寺崖線、深大寺について興味がある方は、ぜひご覧ください。



調布市では、景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせをしていきます。

発行：調布市都市整備部 都市計画課 景観係

Tel：042-481-7746 Fax：042-481-6800 Email：tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp

# ちようふ 景だより 観り

平成31年3月29日発行  
第46号

### 本号の目次

- 〔景観まちづくり市民検討会〕  
国分寺崖線をふりかえろう
- 参加者のみなさんからの感想
- 市民検討会のとりまとめ冊子を作成しています

平成 30 年度の市民検討会では、『国分寺崖線』をテーマに、国分寺崖線の位置や特徴、斜面の緩急による土地利用の違い、自治体によって異なる活用方法、土地に残る緑の保全等について学んできました。

## 1 国分寺崖線を知ろう！

「国分寺崖線」の位置や地形の特徴、市内の各場所の特徴、周辺自治体の国分寺崖線の景観づくりについて学びました。



### 景観はつながっている！

- 行政境界は人間があとから作ったもので、崖線や川といった自然の景観は、行政の境界を超えて連続しています。
- 平成 29 年度に「深大寺」、平成 30 年度に「国分寺崖線」を題材にしたことで、深大寺が国分寺崖線の一部であることを改めて知ることができました。

## 2 国分寺崖線を知ろう！〔模型づくり〕

国分寺崖線の模型を作り、調布市を横断する国分寺崖線がどこを通っているのか、崖線沿いを流れる野川、崖地を切り崩して作られた中央道、甲州街道、京王線などを見て感じる事ができました。



### 崖線は調布市の景観の骨格

- 市の中央を国分寺崖線が大きく横切っていることが、調布市の景観を豊かにしています。
- 崖線の緑や地形が遠くからでも見えることで、自分が市内のどこにいるか方向感覚が湧く糸口になっています。

## 3 国分寺崖線を見に行こう！

### 国分寺崖線バスツアー

国分寺崖線の実際の様子を見に、調布市内から世田谷区までバスで出かけました。眺望ポイントの見学や、景観づくりの取組みを教えてくださいました。



### 崖線樹林地見学

崖線樹林地で緑地保全の活動を行っているみなさんに、樹林地の特徴や活動内容を教えてくださいました。



### 斜面の使われ方は場所によって違う

- 斜面の急なところは雑木林など緑が残り、緩いところは宅地化が進んでいる傾向がみられます。
- 世田谷区や大田区では眺望を意識したまちづくりを、調布市では国分寺崖線の緑の稜線を意識したまちづくりが行われています。

## 4 気づいたことを話し合おう！

国分寺崖線の地形や景観について学んで感じたこと、気づいたことなどをみなさんに話していただきました。

石川初先生  
慶應義塾大学大学院教授



### 景観にうるさい市民になろう！

- 市民のみなさんや市が「景観を良くしようとしている」ことが伝わると、他の市民や事業者にも良い景観を作ろうという緊張感が生まれます。
- 市民検討会を通して知った視点を活かして、良い景観まちづくりを身近な場所で実践して、「景観にうるさい市民」になりましょう。

